

---

# かほくがた

---

河北潟湖沼研究所通信 Vol.11 No.3



三脚にとまっているクモを観察する参加者（第45回河北潟自然観察会にて）

第45回河北潟自然観察会が12月4日におこなわれました。この日は、前日までの悪天候と一変して、風もなく穏やかな天気となりました。そんな気象状況のおかげで、ゴッサマーとよばれる空中を浮遊する細いクモ（蜘蛛）の糸と、たくさんの小さなクモが観察されました。

水田の二番穂、畦や農道わきに生える背丈の低い草の上をよくみると、たくさんのクモがいて、クモの糸がいくつもかけられています。水田を遠目で逆光に見ると、クモの糸が光り、広い範囲の草の上に、まるで極細の網を全体にかけているかのようで、とても綺麗でした。

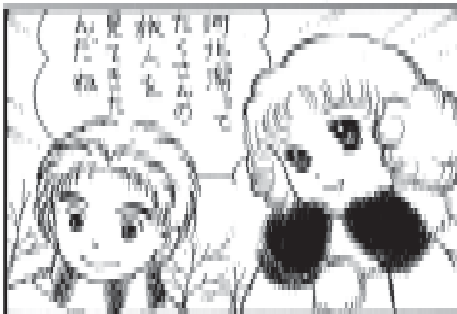
クモは空へ飛びたとうとして草の上に来ているのです。観察に目がなれてくると、三脚や車の上、服の上や足下にも、あちこちにクモがいることに気づきます。空中飛行の邪魔になったのか、気流が上がりずに途中で落下したのか、どこへ向かうのか全くわからないクモの旅たちは大変なものだと感じました。

日本で“雪迎え”と呼ばれるこの現象、この日昼過ぎから天候が崩れ、吹雪となりました。この時期、河北潟の広い水田でこのようなクモの動きがみられることを知っていた中川さんと、天候に恵まれたおかげで、普段なかなかみることのない観察ができ、観察会は大いに盛り上がりました。

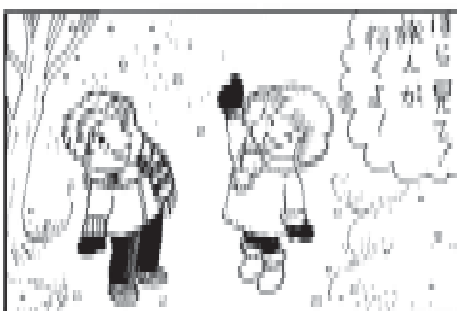
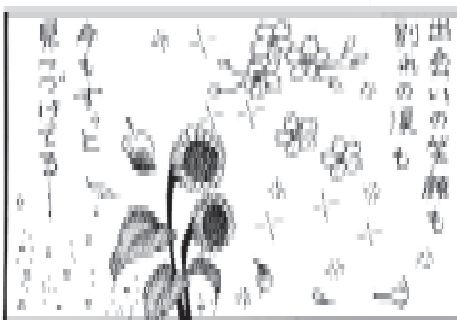
カゴちゃん かいほくがした 幸  
 ショウくん サルドレン

## 河北潟の沿岸を通って行った人々

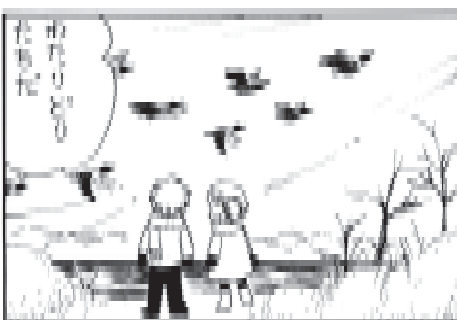
明治天皇（1852～1912）



明治十一年（1878）10月1日（晴れ）北陸巡幸の際、今石動（現 小矢部市）を御発輦（ごはつれん レンは天子の乗る車）された明治天皇は、天田峠を輿（こし 傾斜が急なため、馬車は人夫80人が頭に白紙をつけ、押したり縄で引いて峠を越え九折まで運んだ）に乗り換え越えて、九折、竹橋で休息され、午前11時御馬車で津幡町加賀爪弘願寺に御着きになった。御昼食は宮内内膳課で調理したが、河北潟の名産、素麺鮎（そうめんごり ゴリでダシをとった素麺か、ゴリを載せた素麺か？）をこれに加えてお出しした。朝早くから近郷の人達が大勢集まったが、役人の指揮で道の両側に整列して奉迎した。御昼食の後、寺には菊の御紋章入り三つ組み朱塗り盃、赤絹一疋、金子一封（金二十五円）を下賜された。これらの御下賜品は本年10月1～5日津幡町文化会館「シグナス」で開催の「津幡町生活文化展」で展示された。しかし御座所は明治十三年（1880）火事に遭い、燃えてしまった。明治十一年御巡幸のため天田峠が改修されたため、倶利伽羅峠越えの旧北陸道は急速に寂れていった。これで石動から天田峠越えの新道で、竹橋川沿いに車が通れるようになった。金沢では南町の「中屋薬店」が行在所となった。



前年起きた「西郷隆盛の嵐（西南の役）」の後、人心の安定を図るため8月30日皇居を発って、74日の長期にわたって北陸、東海道を御巡幸された34日目であった。天皇の偉大さを地方の人々に示すため、前加賀藩主を県境まで出迎えさせ、その様子を見せた。



随員の主な者は、右大臣・岩倉具視 参議兼大蔵卿・大隈重信 内務大書記官・品川弥次郎 大警視・川路利良 宮内大書記官・山岡鉄太郎（鉄舟） 二侍補・高崎正風など、総勢798名であった。

・詳細は、県立図書館所蔵の「明治行幸史料」「明治天皇北陸巡幸誌」参照のこと。  
 それには挿絵入りで、手取川（今の粟生大橋付近）を舟を並べその上に板を渡し、馬車・騎兵・ラッパ手・騎馬の近衛兵たちが渡っている図なども見られ興味深い。

（河北潟歴史委員会 宮本 眞晴）

## 2004年度河北潟研究奨励助成の成果について

2004年度河北潟研究奨励助成報告書より、3人目の成果概要をお知らせします。内容は一部省略してあります。

### 助成研究3

「河北潟に生息する哺乳類」

川原奈苗

#### はじめに

河北潟の哺乳類については、ネズミやモグラ類を除くとあまり詳しい報告がなされておらず、地域の環境保全対策をたてるうえでの基礎資料がない。今回研究助成金を得て、河北潟の哺乳類相を把握することを目的として調査を実施した。

#### 調査方法と調査日

2004年7月から2005年6月にかけて、以下の3つの方法で調査をおこなった。

1) フィールドサイン調査法：全12日間実施し、河北潟の広い範囲を確認するように、潟周囲の湖岸や水田、干拓地の道路沿いや水路沿い、格納庫のおかれている敷地周辺などをおもに踏査し、糞や足跡などの動物の生息地に残される痕跡を確認した。

2) ネズミ用トラップによる捕獲調査：、生け捕りタイプのシャーマントラップにより、計17地点で実施した。

3) センサーカメラによる確認：全21地点に計25回設置した。カメラ設置箇所には、哺乳類を誘き寄せるための餌としてさつま揚げまたは油揚げをおいた。哺乳類が餌付けされないように、同じ地点に複数回設置することは極力避けた。

#### 調査結果と考察

河北潟の周囲では、モグラ科の一種、アブラコウモリ、ノウサギ、ハタネズミ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ、ノネコの9種類が確認された。

河北潟干拓地では、ジネズミ、アブラコウモリ、アカネズミ、ドブネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ、ノネコの8種類が確認された。全体としては、12種類の哺乳類が確認された(表1)。



湖岸に設置した無人撮影装置で撮影されたキツネ

表1. 哺乳類確認種一覧

目名	科名	和名	学名
モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>
	モグラ	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>
		コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>
コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>
ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>
ネズミ	ネズミ	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli montebelli</i>
		アカネズミ	<i>Apodemus speciosus speciosus</i>
		ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>
ネコ	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>
		キツネ	<i>Vulpes vulpes japonica</i>
	イタチ	イタチ	<i>Mustela itatsi itatsi</i>
	ネコ	ノネコ	<i>Felis catus</i>
合計種類数			5目 8科 12種

## お知らせ

### 「環境省いきづく湖沼ふれあい事業 - 水生植物保全プロジェクト」現地作業が終了

環境省の委託を受けて実施された「水生植物保全プロジェクト」が、12月11日の活動をもって終了しました。12月11日は雪が降る中での作業となりましたが、26名の方がお集まりになりました。全5回の活動で各3地点の設定目標はそれぞれ達成され、総重量約6トンの外来植物チクゴスズメノヒエが水辺から除去されました。

寒さが増す11月から12月にかけての活動でしたが、回を重ねるたびに参加される方が増え、参加された方々の関心の高さが伺えました。泥だらけになり、まるで草との戦いのような作業でしたが、体を動かし、試行錯誤しながら精一杯作業するなかで生まれてくるものがありました。またお昼には、柿やリンゴの差し入れ、温かいめった汁、第4回目の活動日には河北潟で釣りをされている方々のご協力により、河北潟で釣ったフナのお刺身と甘露煮がごちそうされるなど、寒さの中で温もりの感じられる交流ができました。

また、水草除去のための様々なアイデアや道具が作られ、住民の手による水路の保全のあり方を考える上でも、よいきっかけとなりました。きめ細やかな手作業による水路の管理は、大がかりな浚渫にはない、自然に対しての「やさしさ」をもった新しい管理形態として期待されますが、そうした手法が不可能ではないことが感じられた取り組みでもありました。



地点1西部承水路での草取り作業の様子

## シンポジウム

「河北潟の水辺を守るためには」  
開催のお知らせ

「水生植物保全プロジェクト」事業の一環として、以下の通りシンポジウムを開催します。詳細につきましては別途お知らせ致しますが、多くのおみなさまのご参加をお願いいたします。

**日時** 2006年2月5日 午後1:00～4:30  
**場所** 労済会館2F第2研修室  
(金沢市西念1丁目12-22)

### 趣旨

河北潟は平野の湖沼としては、全国的にも数少ない湖岸植生の豊かな湖です。干拓によりその姿が大きく変容したとはいえ、湖岸の人々によって営まれてきた暮らしが、優れた風景とともに穏やかで多様な水辺生態系を支えてきました。

いま、暮らしから切り離された形で徹底した水辺の管理が進む一方で、水辺そのものが放棄されたり埋め立てられ、全体として多様な水辺が消失しています。

小さく入り組んだ水辺の消失は、水辺の多くの生命の源を断ち切ろうとしています。また、極端な富栄養化によって外来種の極端な繁茂が促されるなどの現象は、水辺の人との共存可能性を否定しようとしています。

かつての水辺とのふれあいを思い起こしながら、あたらしい水辺のつきあい方や管理手法が求められています。

「河北潟の水辺を守るためには」... 参加と実践をキーワードとして、その答えを探ります。

「かほくがた」 VOL.11 NO.3

2005年12月28日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435